

大草谷津田いきものの里 自然観察会

タネの旅立ち

松本 美千代（千葉市）

日時：2014年11月16日（日） 10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：6名（大人4名 子ども2名）

担当指導員：遠藤登志子 松本美千代

天気がよく、広場入口のシラカシ葉上にムラサキシジミが翅を広げていた。黄色いチヨウ・ヤマトシジミ・ウラギンシジミが飛び、ジョロウグモも前回観察会（クモ）時と同じ場所に網をはっていた。羽化したクワコ（11月1日観察会）がいた桑の枝にヒヨドリジョウゴの種子のようなクワコの卵がみられた。春のふ化が楽しみである。

自分で移動できない植物たちが仲間をひろげるための作戦を参加者と一緒に観ていく。

●大草で見られたタネの旅立ち

1 動物や人間によって運ばれるタネ

①体について（くっつきむし） ヒカゲイノコズチ・ケチヂミザサ・ミズヒキ・ヌスピトハギ

②食べられて ムクノキ・エノキ・シュロ・カラスウリ・カキ・キヅタ・スダジイ・ヤツデ・

アオキ・サネカズラ・アケビ・ノイバラ・ムラサキシキブ・ヘクソカズラ・シロダモ・コブシ

2 自然の力で旅するタネ

①風に飛ばされて セイヨウタンポポ・ヒノキ・イヌシデ・ケヤキ・モミジ・オニドコロ・
ヤマノイモ・センニンソウ・クロヤツシロラン

②自分の力で カタバミ・コナラ・スダジイ・シラカシ・ヤブマメ・フジ・ムラサキケマン

③水の流れにのって ジュズダマ・（クルミ）

広場入口で鳥になって、ムクノキ・エノキ実を味わってもらう。ちいさな参加者はお母さんに甘いよとすすめられ、おそるおそる食べていた。ムクのタネ表面は葉と同じようにザラザラしている。エノキのタネは面白い模様していると発見してくれた。

落ち葉を踏みながら進み、背中に黒い土がついたシュレーゲルアオガエルを親子が発見する。翼付イヌシデのタネを拾い、投げて遊んでいたのでびっくりして出てきたのかな？ 林の中は白いヤツデの花やセンリョウ・マンリョウ・ナンテンの赤い実があちこちにみられた。ここでも果肉を取り去り、中のタネを出してみた。白くて丸い小さなタネ、果肉が多いからセンリョウは小鳥に人気があるのかな。小さな玉ねぎのようなマンリョウのタネ。同じ赤い実でも科が違うとこんなに違いが出ると参加者の声があった。これは、ムラサキケマンというと『前に、触ってタネを飛ばしたよね』とおかあさんが子どもに話していた。親ケヤキの下では小枝付のタネを飛ばした。水路ではジュズダマの代わりにクルミを流した。水に浮いたがトンネルからの劇的登場はできなかった。最後に迷子にならないようにそれぞれ色を塗ってもらったユリノキのタネを飛ばした。参加人数は少なかったが色々協力してもらい教えていただくことが多い観察会だった。